

令和 6 年度
施策評価シート修正一覧

目 次

I. 施策分野評価書

第1章 みんなが活躍し、個性輝くまち

1 保育・幼児教育	01
2 学校教育	03
3 子育て・子育て	05
4 生涯学習・社会教育	07
5 科学・文化芸術	09

第2章 みんなが健やかに、支え合って暮らせるまち

7 健康・医療	11
8 地域福祉	13
10 障がい福祉	15
12 人権	17

第3章 みんなが安全に、快適な環境で生活できるまち

13 防災	19
15 交通	21
18 地球環境	23
19 生活環境	25

第4章 みんなが活力と魅力を生み、賑わいあふれるまち

24 観光・交流	27
25 商工業・しごと	29

令和6年度施策評価シート（橿原市第4次総合計画 前期基本計画）

1. 概要					
政策	I	みんなが活躍し、個性輝くまち			
施策分野	I	保育・幼児教育			
目指す姿	子どもが自分の個性や能力を伸ばし、夢と希望を描いています。				

2. 成果と課題					
指標名	幼少期の子どもの笑顔が輝き、のびのびと育っていると感じる市民の割合				
実績値	令和2年度	42.6 %	令和5年度	33.4 %	令和7年度
目指す姿に向けた課題	保育の質を高めるためには公立園、民間保育所等どちらも十分な人数の保育士を確保することが必要となる。また、待機児童の要因としても保育士不足があげられる。公立園では施設の老朽化が進み、再配置の計画なども考慮し計画的に修繕を行っていく必要がある。				

3. 目指す姿の実現に効果があった事務事業（効果があつた順番）	
効果があつた事務事業	担当課室
① 私立幼稚園・保育所等補助事業	こども未来課
② 教育・保育総務事務	こども未来課
③ 保育所・幼稚園管理運営事業	こども未来課
④ 幼稚園施設管理事務	こども未来課
⑤ 子ども・子育て支援事務	こども政策課

総合政策審議会からの提言等
<ul style="list-style-type: none"> ・公立の幼稚園・保育所の話が多いが、私立の内容や保護者の評価についての表現ができないか検討されたい ・目指す姿に近づいたかどうかについて、効果があつた事務事業が根拠となるよう記載し、課題と今後の方針が対応するような記載を検討されたい。

担当課室		
こども政策課	こども未来課	

施策分野の 進捗度	進捗度	B	目指す姿に向けて順調に進んでいる
	進捗度の 根拠や成果	様々な体験の機会の提供や、施設整備を随時実施し、子どもたちが過ごしやすい環境を整えている。また、保育の質を高めるため公立園では園内研修の仕組みを作り、職員自らのスキルアップにつなげている。保育士の確保や離職防止のため、私立園対象の新たな補助金創設の準備や、公立園では多様な働き方に対応するために職種の工夫や、保育環境の整備を行っているが、保育士が不足している状態は解消されていない。	
今後の 方針	人材確保のため大学等への働きかけを引き続き行う。私立園、公立園共に保育士の離職を防ぐ施策をさらに検討していく。公立園については、老朽化した施設の改修など保育環境を整える。また、再配置についても、計画に基づき事業を推進していく。		

事務事業による目指す姿への効果の内容とその理由
民間保育所等に対して、保育士確保・離職防止のために「保育士定着支援金」等の補助を行ったところ、常勤保育士の人数が少しずつ増えている。 「保育士就職準備補助金」、「保育士家賃助成事業補助金」、「保育士アルバイト支援補助金」を既存の補助金に加えてR7年度から新たに創設するべく準備を行った。
保育所の入所判定にA Iを導入することにより、判定の精度が高め、 職員の負担も軽減することができた。 まった。 入所の継続申請ではログフォームを活用した電子申請を導入した。保護者や園の負担を軽減することができたが、 電子申請について、保護者から電話での問い合わせが多数あり、さらに窓口や園でのチェックがなくなったため不備件数が増加し市職員の負担は増加した。今後は保護者へのアナウンス内容などを見直し効率化できるよう進めていく。
令和6年度は2園（晩成幼・第3こども園）で公開研究事業を実施した。 、そこに関わる職員の工夫や子どもたちの力を発揮させるスキルの資質の高さが伺えた。園児の様々な体験の機会として、昨年同様に体操教室・絵本の読み聞かせ・お茶会などの講師を招いて、保育を行った。普段できない体験をすることで、子どもたちの生き生きとした姿や積極的に取り組む姿を見ることができた。保育現場での業務の効率化をすすめて、保育士が質の高い保育ができるようにICTの活用を進めた。令和6年度は各園にパソコンやタブレットを追加購入することで、さらに業務の効率化を進めることができた。公開保育に参加した公立・私立園の職員もスキルの共有ができた。また、各園の園内研修に参加できるように体制を整備し、職員自らの保育のスキルアップを行うことができた。
こども園2園及び幼稚園3園の老朽化したトイレ改修工事をR7年度から着手するための足掛かりを行った。
保育所、幼稚園の適正配置の一環として、公私連携法人を指定することにより、多様な保育ニーズに対応できる公私連携幼保連携型認定こども園を新設し運営する事業者が決定した。地域型保育事業所の誘致を行うことで、3箇所の小規模保育事業所が開設され、待機児童の解消に寄与した。こども・子育て会議を開催し、子ども・子育て支援事業計画、子ども・若者計画及び子どもの貧困対策計画を一体としたこども計画を策定した。

令和6年度施策評価シート（榎原市第4次総合計画 前期基本計画）

1. 概要

政策	I	みんなが活躍し、個性輝くまち
施策分野	2	学校教育
目指す姿	子どもが確かな学力、豊かな人間性、たくましい心身をバランス良く身につけています。	

2. 成果と課題

指標名	市内の小中学生が活発だと感じる市民の割合				
実績値	令和2年度	36.9 %	令和5年度	25.6 %	令和7年度

目指す姿に向けた課題	令和6年度の不登校児童生徒が全国で調査以来最多となり、榎原市においても増加が続いている。それに伴い、榎原市内小・中学校の不登校児童生徒を対象に、学校及び社会生活に適応するための支援を行っている教育支援センター「虹の広場」の利用者が増加し、受け入れが困難になりつつある。 「確かな学力」「豊かな人間性」「たくましい心身」を総合的にとらえて構造化した「学びに向かう力、人間性等」「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」をバランスよくはぐくむことが大切となりますが、「知識及び技能」に偏ったいわゆるインプット中心で、アウトプットする学習活動が少ないため、「思考力、判断力、表現力等」に課題がある。
------------	--

3. 目指す姿の実現に効果があった事務事業（効果がかった順番）

効果がかった事務事業	担当課室
① いじめ・不登校対策等生徒指導事業	学校教育課
② 小中学校教育課程充実事業	学校教育課
③ 教育施設再配置事業	教育総務課
④ 学校運営事業	学校教育課
⑤ 学校給食事業	教育総務課

総合政策審議会からの提言等

- ・不登校対策も重要であるが記述内容に偏りがあるように思われるため、目指す姿の達成に向けた他の取り組み内容の充実を検討されたい。
- ・不登校対策を手厚く実施されていると思うが、相談のあとどういう効果があったかなどのアウトカムの記述を検討されたい。

担当課室		
教育総務課	学校教育課	

施策分野の 進捗度	進捗度	B	目指す姿に向けて順調に進んでいる
	進捗度の 根拠や成果	いじめ・不登校対策等生徒指導事業については、令和6年度よりいじめ防止対策委員会にて「 「檜原市不登校対策基本方針」 」策定に向けて協議を開始し、令和7年度中の策定を目指している。また、カウンセリングの需要の増加に伴い、 県配置のカウンセラーを補充する市費カウンセラーの配置を実施すること で、 早期のカウンセリング対応が実現できたが、不登校児童生徒は減少していない 。 全国学力・学力状況調査の結果を受け、各校で課題分析をし、目指す姿に向け組織的に授業改善に取り組んでいる。また、教育委員会が全校にヒアリングを実施し、その進捗を確認することで、PDCAサイクルの確立できている。 ただ、自校採点をすることで、早期に授業改善に取り組む学校が全校にまでは至っていない。	
今後の 方針	令和7年度策定予定の「檜原市不登校対策基本方針」に基づき、小・中学校の全校で未然防止を念頭に不登校対策を充実させ、不登校児童生徒を減らしていく。一方で「虹の広場」での不登校児童生徒の受け入れを増やすため、速やかに移転先を検討し、環境整備をしていく。 全校の子どもたちが「確かな学力」「豊かな人間性」「たくましい心身」を育めるよう全国学力・学習状況調査を活用しながら授業改善に取り組む。		

事務事業による目指す姿への効果の内容とその理由
<p>不登校数の増加に伴い、「虹の広場」の分室設置とオンライン通室により、支援体制の充実に努めている。また、各校へいじめ・不登校対策非常勤講師、心理相談員等を配置することで子どもの生涯学習の基礎の習得を促し、相談員等を配置したことで、いじめや不登校の組織的解決を図ることができた。さらに、市スクールカウンセラーを各中学校と必要小学校に配置し、教育相談体制の充実といじめや不登校等の予防や解決を図った。また、SNS相談では、年間615件の相談があり、中学生の悩みの早期発見と心理的不安の軽減を図ることを目的として対応したにつながっている。</p>
<p>教育活動サポート事業により、教育講演会、出前授業などの教育内容が含まれる事業実施を促し、各校の特色ある学校づくりを支援することができた。また、教育委員会が指定研究学校を指定し、各指定研究学校での研究の実施と推進を図ることで、本市教育の進展に役立てることができた。さらに前年度に引き続き市立図書館と連携し、モデル校における読書活動推進を実施するとともに、デジタル社会における読書活動のモデル構築に向けた取組として、1人1台端末を活用し、電子書籍を利用することで読書活動の推進と定着を図った。</p>
<p>旧白樺南小学校と旧白樺北小学校を統合した白樺小学校を開校した。両校は児童数が減少し、学校の小規模校化が進んでいたが、統合により、クラス替えが可能となり、人間関係の幅を広げることができた。また、グループ学習などの多様な学習形態を取り入れられることで、教育的な環境が向上する効果が得られた。白樺小学校の校舎として今後使用する旧白樺北小学校舎の長寿命化改良工事に着手し、施設面の整備も今後進めていく。</p>
<p>特別支援対応や教科対応の非常勤講師を小中学校に週当たり438時間配置するとともに、部活動指導員についても6校に対し9部へ配置することで、特別な支援の有無に関わらず、全児童生徒が分け隔てなく学校生活を送れる環境を整備したようになった。このようにさまざまなニーズに対応する人材を配置することで、本来教員が担うべき業務に専念することができ、子どもたちの学力向上、豊かな心、たくましい心身の育成につながっている。</p>
<p>各学校で食に関する指導の全体計画や年間計画を作成し、教科横断的に食に関する指導を行った。また、日々提供する学校給食を「生きた教材」として活用し、地場産物を活用したり郷土食について知ることで、食料の生産等に対する関心と理解を深め、郷土や歴史の学習にもつなげることができた。</p>

<p>・進捗度の根拠に目指す姿に向けて昨年度どういう成果があって、どういう課題が残っているからなど、各項目にあった記載を検討されたい。</p>

令和6年度施策評価シート（榎原市第4次総合計画 前期基本計画）

1. 概要						
政策	I	みんなが活躍し、個性輝くまち				
施策分野	3	子育て・子育て				
目指す姿	子育て世代が安心して出産や子育てをすることができ、いきいきと輝いています。					
2. 成果と課題						
指標名	出産・子育ての悩みや不安を相談できる環境があると感じる市民の割合					
実績値	令和2年度	30.2 %	令和5年度	17.5 %	令和7年度	
目指す姿に向けた課題	<p>安心して出産・子育てを行うため、相談窓口や各種支援体制事業の充実を図っているが、その支援体制を継続させるための人材確保や質の維持・向上並びに制度の更なる周知が必要である。</p> <p>また、共働き世帯・ひとり親世帯の支援の継続、充実及びかかりつけ医を持ち安心して適正に医療機関へかけられる体制の整備も必要となっている。</p> <p>また、市民アンケートの高まりにより、約30%の就学前児童保護者、約46%の小学生以上児童保護者が「安心して子どもが医療機関にかかれる体制を整備してほしい。」と回答している中、かかりつけ医を持ち安心して適正に医療機関へかけられる体制づくりとして、子ども医療費無償化を継続させていくことが課題である。</p>					
3. 目指す姿の実現に効果があった事務事業（効果があった順番）						
効果があった事務事業				担当課室		
① 子ども家庭総合支援拠点事業				こども家庭課		
② 子ども等医療費助成事業				保険年金課		
③ 放課後児童健全育成事業				人権・地域教育課		
④ 児童発達支援事業				こども発達支援課		
⑤ 母子・父子自立支援員相談業務				こども未来課		
総合政策審議会からの提言等						
・こども医療費の無償化により、医療費全体が伸びているが、子どもに対しては効果があり、制度維持のため医療費全体は適正化していくということがわかる記載を検討されたい。						

担当課室		
こども家庭課	こども未来課	保険年金課
人権・地域教育課	こども発達支援課	
施策分野の 進捗度	進捗度	B
	進捗度の 根拠や成果	<p>0歳から18歳までの子ども医療費一部負担金を無償化したことで、子育てに伴う経済的負担の軽減を齎すことができ、大きな成果を得ている。</p> <p>また、母子保健機能と児童福祉機能を一体化した「こども家庭センター」を設置し、全ての妊産婦・子育て世帯・子どもに対しても切れ目ない支援体制の充実を図り、制度の構築や継続的な人材の確保に努めている。今後は専門職の人材確保と定着、質の維持・向上等を課題となっている。</p> <p>母子保健機能と児童福祉機能を一体化した「こども家庭センター」を設置し、全ての妊産婦・子育て世帯・子どもに対する切れ目ない支援体制の充実を図り、制度の構築や継続的な人材の確保に努めている。こどもの発達支援及び就学後の子どもの放課後支援分野も含めて、専門職の人材確保と定着、質の維持・向上等が今後の課題となっている。また、0歳から18歳までの子ども医療費一部負担金の無償化により、子育てに伴う経済的負担の軽減を図ることができており、引き続き安心して適正に医療機関に受診できる体制づくりが求められている。</p>
今後の 方針		<p>・ 高度な専門性に対応できる専門職の人材確保を図ると共に、研修等によって質の維持・向上に努める。</p> <p>・ 子育て世代への相談支援を継続することや、子ども医療費無償化を継続し適切な医療機関受診の啓発も進めることで安心して適正に医療機関にかかる体制整備を行う。</p> <p>・ 引き続き、子育て世代に必要な施設の整備及び維持管理を行う。</p> <p>→高等職業訓練促進給付金の保育士資格取得希望者に対し、資格取得後恒原市で勤務を予定する者に市独自で給付金を追加支給する取り組みを実施。</p> <p>→子ども医療費無償化を継続すると共に、適正な医療機関受診の啓発を行っていく。</p>
事務事業による目指す姿への効果の内容とその理由		
令和6年度こども家庭センターを設置し、妊娠・出産・子育ての相談対応にあたった。児童虐待対応職員は研修を受講し、要保護児童対策地域協議会調整機関として児童虐待対応を行った。相談内容は、育児・しつけ等の家庭問題から児童虐待など多岐にわたり、相談内容に応じて関係機関と連携しており、幅広い相談に対応し子育ての安心につながっていると考えられる。また、こども家庭センターを設置したことにより、母子保健と児童福祉の間でタイムリーな情報共有と連携が行えている。		
0歳から18歳までの子どもを対象に子ども医療費助成を行っている。令和6年8月からは、18歳までの一部負担金の無償化を行った。その結果、令和5年度と比較し、件数は約12%、医療費は約25%伸びている。高額な治療となった場合でも、子育て世代の経済的負担の軽減を図ることにより、安心して子供が医療機関にかかる体制整備に寄与しているものと考えられる。		
<p>子どもを放課後児童クラブに預けることにより、子どもの安全性が確保できるため、子育て世代が安心して就労に専念することができている。保護者の就労形態の多様化により、</p> <p>子育て世代が安心して就労に専念できるよう、放課後児童クラブ児童数増への対応、子どもの安全確保につながる整備を行った。放課後児童クラブの登録児童数は令和4年度1,306人、5年度1,369人、6年度1,461人と年々増加している。受け入れ人数を確保するため、小学校やこども園の余裕教室を活用できるよう施設整備を進めている実施、既存施設の老朽化に伴う修繕を行い、安全性を確保していく。安全確保のため既存施設の老朽化に伴う修繕を行った。</p>		
児童発達支援事業所かしの木園では、専門職を確保し、質の向上のための園内・園外研修にも積極的に取り組み、個々の課題や障がいの程度及び発達状況に合わせたきめ細やかな療育を行っている。また保護者への個別相談も同時に行っており保護者支援にも力を入れている。年度末に実施した子ども及び保護者への満足度調査において、療育や支援の内容や方法を総合的に検討してもらった上で回答を受け、子ども95.5%、保護者95.5%と、高い満足度を得ている。		
<p>ひとり親家庭等や離婚前の支援が必要な家庭に対し、母子・父子自立支援員が個々のニーズを丁寧に聞き取り、必要な制度の案内を実施し、家庭の経済状態や生活の安定につなげることで、子育て世代が安心して子育てができる環境整備に寄与していると考えられる。</p> <p>母子・父子自立支援事業を実施しているが、その事業に資格を取得するための養成機関で就学する場合、就学期間中の生活費負担を軽減するために高等職業訓練促進給付金の支給（補助率：国3/4、市1/4）がある。その中で、母子父子家庭が市内で安定した生活が送れるようにするとともに、保育士不足の解消となるよう、令和6年4月1日より高等職業訓練促進給付金の保育士資格取得希望者に対し、資格取得後に恒原市で勤務を予定する者に市独自で給付金を月額に20,000円上乗せし支給する取り組みを実施。</p>		
・ 目指す姿に近づいたかどうかについて、効果があった事務事業が根拠となるよう記載し、課題と今後の方針が対応するような記載を検討されたい。		

令和6年度施策評価シート（檀原市第4次総合計画 前期基本計画）

1. 概要

政策	I	みんなが活躍し、個性輝くまち
施策分野	4	生涯学習・社会教育
目指す姿	市民がいつでもどこでも学びたいことを学ぶことができ、学習の成果を活かしながら生きがいのある人生を過ごしています。	

2. 成果と課題

指標名	生涯学習に取り組んでいる市民の割合					
実績値	令和2年度	25.9 %	令和5年度	23.5 %	令和7年度	
目指す姿に向けた課題	趣味・嗜好や考えが多様化する現在において、市民が生きがいのある人生を過ごすために、多様なニーズに合った講座等の実施を進めていきたい。 年齢や性別、興味関心に合わせた講座等を提供し、学びを促進することが求められる。					

3. 目指す姿の実現に効果があった事務事業（効果がかった順番）

効果がかった事務事業	担当課室
① 社会教育推進事業	生涯学習課
② 二十歳のつどい開催事業	生涯学習課
③ 中央公民館管理活用事業	中央公民館
④ 青少年健全育成事業	人権・地域教育課
⑤ 地区公民館管理活用事業	中央公民館

総合政策審議会からの提言等

- ・多種多様なニーズは、講座に来ていない市民や社会が求めるニーズなどを把握しないと、求められる生涯学習の内容に対応できないので、把握について具体的な表現を検討されたい。

担当課室		
生涯学習課	中央公民館	人権・地域教育課

	進捗度	B	目指す姿に向けて順調に進んでいる
施策分野の 進捗度		多種多様なニーズにはまだ対応できていないが、講座実施後のアンケートでは、いずれも満足度が高く、市民の学びたい意欲が感じられたため。	
	進捗度の 根拠や成果	講座等の実施にあたって、社会的なニーズ（潜在的なニーズ）の把握には至っておらず、真に魅力的な講座等の開講ができていないかは、不透明である。しかし、実際に講座等に参加した市民からのアンケートでは、講座等の満足度は高く、市民の学びたい意欲が感じられ、一定の成果はあったと考える。	
今後の 方針	市民のニーズを把握し、市の各施設とも連携し、年間を通じて多種多様な生涯学習の機会の場を作っていく。 アンケートでの意見は尊重しつつ、社会的なニーズ（潜在的なニーズ）の掘り起こしを模索し、市民が学び続けられる環境作りと、学びを社会へ還元できる仕組みづくりを行う。		

事務事業による目指す姿への効果の内容とその理由
まほろば歴史講座は、2回連続の講座で、定員を超える応募がありました。特に2回目のフィールドワークは参加者の満足度も高く、また開催してほしいという声を多くいただきました。また、小学生の親子を対象とした食育講座も、定員を超える応募がありました。アンケートの回答に親子で作業することが楽しかった、また家でも料理したとの回答をいただき、親子の触れ合いのきっかけ作りができました。
生涯学習の推進において、若い世代と地域のつながりは重要であり、通学や就職で市外へ転出した若い世代も多数参加し、同年代の旧友との交流の場となり、旧友、故郷や地域を想う貴重な機会となりました。目標には、なかなか届かないものの70%以上は維持し、高い出席率でした。令和4年4月1日の民法改正により成年年齢が20歳から18歳に引き下げられたが、今後も引き続き対象年齢を今までと同じ20歳とし、名称を「二十歳のつどい」として式典の開催を継続していきます。
生涯学習の学びの施設として適切な維持管理のもと、中央公民館主催教室を開催することで、利用者が求める学びの場を提供することができました。また主催教室では、体験型や習い事その他、新たに小中学校生向けの算数・数学教室も実施し、中身が充実したものとなりました。このことにより、受講者の登録団体活動への参加等、生涯学習の啓発、学習意欲が向上しました。
青少年指導委員による街頭指導等及び、青少年センター職員による青色パトロールカーの巡回を実施しました。近年は不登校やひきこもり、SNSを通じた悩みなど、青少年の悩み相談を17件受けました。青少年が直面する問題が多岐にわたっており、悩み相談は重要であると感じます。今後はさらに充実したものとするため、市内公共施設にチラシを配架し、周知を図ります。青少年センターの活動を通して次世代を担う青少年の健全育成を図ることが、生涯学習の発展にとって重要です。
指定管理者と向き合った適切な施設維持管理に努め、各地区公民館にて各種教室の開催や文化活動等のイベントの実施により、前年度に比べて利用者が約1166人増加しました。

令和6年度施策評価シート（榎原市第4次総合計画 前期基本計画）

1. 概要

政策	I	みんなが活躍し、個性輝くまち
施策分野	5	科学・文化芸術
目指す姿	科学や文化芸術に親しむ機会が多くあり、市民が豊かな知性と心を育んでいます。	

2. 成果と課題

指標名	科学・文化芸術に親しんでいる市民の割合				
実績値	令和2年度	26.4 %	令和5年度	22.4 %	令和7年度
目指す姿に向けた課題	20年前の入場者数を上回りつつあるが、今後来館者に満足してもらえるよう多種多様なイベントを開催し、新規の来館者を増やしていくことが課題である。また、安全に利用いただくため、経年劣化が進んでいる建物等の保全及び展示物のリニューアルが必要。				

3. 目指す姿の実現に効果があった事務事業（効果があった順番）

効果があった事務事業	担当課室
① こども科学館管理活用事業	生涯学習課
② 昆虫館管理活用事業	昆虫館
③ 文化芸術振興事業	生涯学習課
④ 図書館管理活用事業	図書館
⑤ 文化ホール管理活用事業	生涯学習課

総合政策審議会からの提言等
・進捗度の根拠や成果に「創意工夫」という記載があるが、どのような「創意工夫」が明確な表現を検討されたい。

担当課室		
生涯学習課	昆虫館	図書館

施策分野の進捗度	進捗度	C	目指す姿の実現には努力が必要である
	進捗度の根拠や成果	昆虫館、こども科学館、図書館ともに創意工夫によりコロナ禍前に戻ってきた。万葉ホールはワクチン接種会場となり、長期間貸館が制限されたことやオンライン会議等の普及により、稼働率の増加に至っていない。	
今後の方針	科学・文化発信拠点として、より魅力的な事業を模索し、限られた資源を使用しながら誰もが文化芸術に触れてもらえるよう創意工夫が必要。また、施設の保全や設備更新なども、今後の市の計画を考慮しながら考えていく必要がある。		

事務事業による目指す姿への効果の内容とその理由

5月3日～5日「こどもの日イベント」（入場者2,043名）、6月8日～7月19日、特別巡回展「マダ de ひもとく生命科学のいま「ドゥッ！いのちの不思議調査隊」に、（入場者4,238名）11月18日～11月19日「関西文化の日イベント」（入場者1,456名）等のイベントを実施した。~~それぞれ来館をいただき、こども達の科学に対する好奇心を育む機会を提供した。~~令和6年度は、57,216名に来館いただき、前年度（令和5年度）の52,728名、~~3時間を超える来館者となった。6年ぶりにサテライトイベントを開催、1,367人の来場者でにぎわった。~~総じて57,216名の来館があり、前年比109%となりコロナ禍前を上回る来館者となった。今後もこども達の科学に対する好奇心を育む機会を創出するためにも、施設の維持補修を施しながら、良き成長の一助となる企画運営を継続していきたい。

小学校からの依頼が多いモンシロチョウの飼育教材配布による学習支援(14校)を行った。また特別展「人の役に立つ昆虫たち」や、昆虫模型と昆虫標本を見比べ楽しく学習できる企画展「虫のガシャポン」などを開催した。他にも放蝶温室内の音楽コンサートの実施、蝶の翅を用いたグッズ開発・販売、来館者にインスタ映え写真の投稿や公式X(旧Twitter)のフォローをしていただく企画を行い、多世代に向けて昆虫館の周知や生涯学習の機会を提供した。令和6年度入館者数は88,839人と~~なり~~、前年度~~より~~84,188人より4,651人の増加となり、引き続き自然科学に親しめられるように努めます。

文化・芸術振興に貢献している各団体に対して補助金を交付し、~~健全な事業活動を行えるように団体を育成する。~~各団体が多くの活動を行うことにより、市民の文化レベルの向上を図った。将来的に補助金に頼らず、運営できるよう会費の在り方等の指導を行った。また、市民に対する文化・芸術活動の振興の面から、伝統ある橿原市美術展覧会を開催、優れた美術作品を展示し、文化・芸術への関心を深めるとともに、~~一層の芸術活動の振興を図った。~~126作品の出品展示、期間中764人の入場者があった。市民の文化レベルの向上を図るため健全な事業活動を行い、将来的には補助金に頼らず自主運営できるよう団体を指導・育成している。また、一層の芸術活動の振興を図るため、橿原市美術展覧会を開催し、市民から出品された126点の優れた美術作品を展示し、厳正な審査の上、評価を行った。表彰式後、審査員によるPTGの機会を作り、技術レベルの向上を図った。今後も市の文化の火を灯し続けられるよう、市民が気軽に「作る・見る」楽しさに触れる機会の創出に努めたい。

~~令和6年度は5年度に引き続き、~~図書館利用を推進するために、SNSを活用した情報発信、資料展示や各種イベントを開催し、幅広い年齢層に図書館の存在アピールを行った。~~また7月から橿原市内の小学生を対象に電子図書館サービスを開始したところ、8万8,880件の利用があった。児童の新規登録者数の増加が見込まれたが、令和5年度と比較し約200人減少した。電子図書館は図書館システムと連携していないため、図書館利用に繋がらなかったと考える。~~

文化等発信の拠点として、個人・団体に貸館施設を提供すると共に、自主事業公演として、8月24日「東大卒 匠王 伊沢拓司講演会「楽しい」から始まる学び」を開催、~~入場者数426名、9月28日に自主事業公演「澁川鯉斗独演会」を開催、入場者数182名、11月10日に自主事業公演「栗コダカテット」を開催、入場者数272名、3月9日に自主事業公演「柳田理科雄サイエンス」を開催、入場者数825名。~~多種多様な公演を行ったが、~~サイエンスの一角として行った「柳田理科雄サイエンス」以外はチケット販売が伸び悩み、苦戦となった。~~（入場者数426名）。9月28日「澁川鯉斗独演会」（入場者数182名）。11月10日「栗コダカテット」（入場者数272名）。3月9日「柳田理科雄サイエンス」（入場者数825名）とロケットホールにて公演を行ったが、イベントによっては販売が伸び悩み苦戦となった。今後については収益性も踏まえつつ可能な限り市民ニーズを捉え、満足度の向上を目指していきたい。

・稼働率が上がることを目指しているのではなく、市民が科学技術や文化に親しむ機会を作ること、知性と心を育てるという状態をどう強化したのか、適切な表現を検討されたい。

令和6年度施策評価シート（檀原市第4次総合計画 前期基本計画）

1. 概要		
政策	Ⅱ	みんなが健やかに、支え合って暮らせるまち
施策分野	7	健康・医療
目指す姿	市民が健康的な生活習慣を身につけ、自発的に健康づくりに取り組んでいます。	

2. 成果と課題						
指標名	日常的に健康づくりに関心を寄せている市民の割合					
実績値	令和2年度	49.6 %	令和5年度	50.7 %	令和7年度	
目指す姿に向けた課題	日常的に健康づくりに関心を寄せている市民の割合は伸び悩んでおり、特定健診・がん検診受診率も同様に伸び悩んでいる。健康無関心層に対するアプローチ方法の工夫を、引き続き行う必要がある。					

3. 目指す姿の実現に効果があった事務事業（効果がかった順番）	
効果がかった事務事業	担当課室
① 健康増進事業	健康増進課
② 保健衛生普及事務	保険年金課
③ 予防接種事業	健康増進課
④ 救急医療事業	健康増進課
⑤ 国民健康保険事務	保険年金課

総合政策審議会からの提言等
<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診・がん検診受診率の伸び悩みについて、回復傾向であるとのことであるが数値を記載されたい。 ・連携協定先のアクサ生命との連携による受診率向上策について検討されたい。

担当課室		
健康増進課	保険年金課	

	進捗度	C	目指す姿の実現には努力が必要である
施策分野の 進捗度	進捗度の 根拠や成果	健康的な生活習慣の普及・啓発として、市内企業に出向き壮年期層への教室実施、検診の個別勧奨や動画配信を行ったが、市民全体への広がりには乏しい。 特定健診の受診率については回復傾向がみられている。 特定健診の受診率向上対策を実施し、徐々に回復傾向がみられているが目標値には達していない。	
今後の 方針	市ホームページやSNS、動画配信など様々なツールを活用することで、市民の健康意識を高め、自発的な取組や健(検)診受診につなげる。		

事務事業による目指す姿への効果の内容とその理由
<p>がん検診等の各種検診の実施や今日からはじめるウォーキング講座、ヘルスリーダー養成講座、運動普及推進員による定例ウォーキング、わくわくエクササイズ、食生活改善推進員による調理実習を実施したほか、市ホームページでがん検診や歯周病検診の受診につなげるため、勧奨動画を配信し啓発を行った。また、働き世代の健康づくり支援を目的として、市内企業に出向き健康教室を実施した。</p>
<p>国民健康保険の被保険者に対して特定健診や脳ドック検診の実施・費用助成、生活習慣病対策で30代の早期介入や改善指導等を行い、市民の健康増進に寄与した。特定健診の受診率の向上のため、未受診者へ属性に応じた種類の異なる受診勧奨ハガキを送付した。受診勧奨に努めている。また商工会議所と連携事業として事業主健診でデータ共有したり、特定健診受診者へ抽選で260名に商品券を贈呈した。令和7年3月現在の特定健診の受診率は26.8%であり、昨年度の同時期より1.2%上昇している。</p>
<p>予防接種法に基づき、乳幼児から高齢者まで幅広く個別予防接種を実施し、乳幼児予防接種 BCGの接種率は98.6%を維持できている。高齢者に対しては、新型コロナウイルス感染症予防接種が定期化された事に伴い、様々なツールを活用し市民啓発を行うことで、予防接種の関心にもつながった。また、子宮頸がんワクチン（キャッチアップ）の経過措置に対しても個別に接種勧奨を行うことで、接種率向上につながった。</p>
<p>橿原市休日夜間応急診療所は1年間休むことなく開所し、夜間診療（内科、小児科）、深夜診療（小児科）、休日診療（内科、小児科、歯科）を行うことで、疾病の早期対応や、市民が安心して生活を送ることに寄与した。令和6年度に医師の働き方改革の条件を満たすため、小児の深夜時間帯の診療に宿直体制を導入し小児深夜診療の体制確保を行った。</p>
<p>保険者として国民健康保険の被保険者に対して必要な医療の給付等を行うことにより、市民の健康に寄与した。また、これまでは、高額療養費支給申請書と領収書を該当月ごとに提出して申請する必要があったが、令和6年4月以降手続簡素化の申請を行うと、次回以降の申請や領収書が不要となり、高額療養費を指定口座に自動振込みするようになり、申請の漏れがなくなった。</p>

<p>・昨年度残した課題が、どう解消に向かったのかという内容を根拠に基づき整理し、記載されたい。 ・進捗度Cとの評価ですが、内容を見るとB評価でもよいかと考えるので検討されたい。</p>
--

令和6年度施策評価シート（檀原市第4次総合計画 前期基本計画）

1. 概要

政策	Ⅱ	みんなが健やかに、支え合って暮らせるまち
施策分野	8	地域福祉
目指す姿	地域の誰もが主体となって支え合いながら、健やかに安心して心豊かに暮らしています。	

2. 成果と課題

指標名	身近に支え合える環境があると感じる市民の割合				
実績値	令和2年度	49.4 %	令和5年度	39.2 %	令和7年度
目指す姿に向けた課題	地域福祉の推進には、地域住民、行政、民間団体が連携、住民の課題解決に取り組むことが必要不可欠である。そのためには地域の誰もが支え合う環境を整える人材を育成することが求められる。				

3. 目指す姿の実現に効果があった事務事業（効果があった順番）

効果があった事務事業	担当課室
① 地域福祉活動推進事業費	福祉総務課
② 生活困窮自立支援事業	福祉総務課
③ 生活保護事務	生活福祉課
④ 社会福祉事務	福祉総務課
⑤	

総合政策審議会からの提言等

- ・分かる者が少なくなる固有名詞ではなく、市民が見て分かるような表現で記載されたい。
- ・「一助」のような表現は責任の所在が不明瞭で評価が難しくなるので、明確になる表現を検討されたい。

担当課室		
福祉総務課	生活福祉課	

	進捗度	B	目指す姿に向けて順調に進んでいる
施策分野の 進捗度	進捗度の 根拠や成果	地域住民の抱える多様な課題に対し、行政や地域及び各種関係団体が連携して取り組む「重層的支援体制」の整備の一環として、情報共有ツール（ プリアンター ）を整備し、福祉部内にて運用を開始した結果、スムーズな関係課間の連携を行うことができた。今後、重層的支援体制の周知及び プリアンター での情報共有ツールでの情報共有を庁内全体に行うことが課題となる。また、生活困窮者自立支援において、相談者に寄り添いながら、相談者の自立につながる情報やサービスの提供等、幅広い支援を行ったことで、利用者の自立に向けた変化も見られた。生活保護受給者においては、就労支援を根気よく続けることで、就労収入の増加及び生活困窮者の自立につながった。	
	今後の 方針	重層的支援体制の整備をさらに推し進め、地域や各種関係機関が協働して対応できるように連携を強化するとともに、「支える・支えられる」関係を超えた助け合いの地域づくりを進める。また研修や地域活動への参加促進等の取組により、地域福祉の担い手や、活動の中心的な役割を担う人材の育成を進めていく。	

事務事業による目指す姿への効果の内容とその理由	
<p>地域が抱える複雑化、多様化する課題を解決するには、市、社会福祉協議会、地域住民、各関係団体と協働できる体制整備は重要である。令和6年度においては、民生児童委員の活動支援や災害時に備えた避難行動要支援者名簿の作成に取り組み、自治会への再配布を実施することにより、要支援者の拡充に取り組むことができた。また、地域見守りネットワーク協定についても、新たに1事業者と締結した。今後もこういった取組みを強化することにより、地域の誰もが安全安心に、住み慣れた地域でいつまでも生活できる街づくりの一助となっている。</p>	
<p>近年の社会情勢により相談内容が複合化・複雑化したのが「断らない相談支援」を目指したことによって、生活保護に至る前の第2のセーフティーネットとして相談者に寄り添いながら多くの情報、サービスを提供し、家賃の支給など安心して暮らせる生活に繋がった。相談件数については令和6年度は363件であり、国の示す目安値(400件)に対して、一定程度の効果は発揮している。また、複合化・複雑化した相談に対応するため、情報共有ツール（プリアンター）を整備し福祉部内で運用し、関係課間で情報共有ができた。</p>	
<p>生活保護受給世帯数は平成28年度の1,170世帯を最大とし以来減少傾向であったが、令和4年度の922世帯を底として以降微増しており令和6年度は932世帯となった。生活保護制度の運用では、生活保護法令の遵守と被保護者の実態把握に努めるとともに、担当ケースワーカーはより相談相手になるよう努めてきた。また被保護者の就労支援にも努め、結果32名の方が就労された。今後も引き続き自立に向けた指導・助言、要保護者への適切な対応を継続する。</p>	
<p>弁護士による無料法律相談は解決策の方向性を示すことができるため、市民が法的トラブルに遭っても安心して暮らすことができる一助となっている。各種団体との連携においては、例えば、保護司会と連携している法務省提唱「社会を明るくする運動」の作文コンクールでは小中学生約980名が参加し、作文を書くことを通じて犯罪非行の防止に関する意識を高めることができ、地域の誰もが主体的に支えあい健やかに安心して心豊かに暮らせる地域づくりの一助となっている。</p>	
<p>・昨年度解決できなかった課題がどうなったか、どれだけ進んだかという内容を成果と課題に整理し、昨年度の今後の方針に対しどう解決に向かったかを表現されたい。</p>	

令和6年度施策評価シート（檀原市第4次総合計画 前期基本計画）

1. 概要

政策	Ⅱ	みんなが健やかに、支え合って暮らせるまち
施策分野	10	障がい福祉
目指す姿	障がいのある人もない人も、誰もがお互いに尊重し支えあいながら、いきいきと暮らしています。	

2. 成果と課題

指標名	障がいのある人が日常生活を送るための環境が整っていると感じる市民の割合				
実績値	令和2年度	15 %	令和5年度	10 %	令和7年度
目指す姿に向けた課題	障がいに関する施策は、国の制度によるところが大きい。早期に療育を必要とする児童の増加や精神障がい者の増加に伴い障害福祉サービスの利用者が年々増加しており、財政上の負担も増えてきている。また人権擁護の観点からも、障がいに対する偏見や差別があることも課題であり、障害福祉サービスの充実とともに、障がいを理由とする差別の解消や権利擁護の推進、障がい者理解に対する普及啓発等、両面からの取組が必要である。				

3. 目指す姿の実現に効果があった事務事業（効果があった順番）

効果があった事務事業	担当課室
① 障がい者地域生活支援事業	障がい福祉課
② 障がい者自立支援事業	障がい福祉課
③ 障がい福祉事務	障がい福祉課
④ 障がい関係団体補助金事業	障がい福祉課
⑤	

総合政策審議会からの提言等

- ・昨年度解決できなかった課題がどうなったか、どれだけ進んだかという内容を成果と課題に整理し、昨年度の今後の方針に対しどう解決に向かったかを表現されたい。

担当課室		
障がい福祉課		

	進捗度	B	目指す姿に向けて順調に進んでいる
施策分野の 進捗度	進捗度の 根拠や成果	障がいのある人もない人も「支える側」と「支えられる側」を超えて共に生きる「心のバリアフリー」実現のため、合理的配慮等の啓発を行っているが、大きな成果はまだ得られていない。誰もが住み慣れた地域でできるだけ自立し、安心して暮らすことができるよう、障害者総合支援法等に基づき、生活上の困りごとや個々の特性に配慮したきめ細かな相談支援や障害福祉サービスの提供に努めたことについては、 ある一定の成果が得られたと考える。 ました。	
今後の 方針	財政上の負担増はやむを得ないが、持続的な制度設計や財源確保について国等に要望していく。障がいを理由とする差別の解消に向け、障害者差別解消法の「合理的配慮の提供」の周知・啓発に努め、障がいのある人が直面する様々な社会的障壁を除去していくための施策を推進する。		

事務事業による目指す姿への効果の内容とその理由	
障がいのある人も、ない人も共生できる社会を目指し、平成30年に手話言語条例を制定し、手話に対する理解を深め、手話の使いやすい環境を整えていくための取組を行っている。具体的には、手話奉仕員養成講習会を開催し、28名が修了した。小学校手話体験教室では、市内15校のうち、6校（431名）の受講があった。また、民生委員・児童委員に向けた手話講座を開催、約30名の参加があった。今後も広く受講に向けて普及啓発に取り組んでいく。	
障害者総合支援法では、障がいの有無にかかわらず、国民が相互に人格と個性を尊重し、安心して暮らすことのできる地域社会の実現を目的としている。中でも、障がいのある人の地域生活移行を進める一つとして共同生活援助（グループホーム）が重要となっており、障がい福祉計画の目標数（178人）より多い211人が利用された。利用者が適切なサービスを受けられるよう、今後も障がい者の地域生活におけるニーズの把握に努め、自立支援事業の効果的な実施、適正な支給に努めていく。	
障がい者福祉制度は複雑で必要書類も多く、サービス等の条件も異なる。窓口の対応を行う職員（ 会計年度任用職員 ）を配置し、制度やサービスについて丁寧に説明するなど、市民サービスの向上に努めてきた。障がいの特性や状況等により、窓口においてトラブル等に繋がる場合もあり、職員の窓口対応力の強化が必要である。窓口で配付する障がい者福祉の手引き等の見直しも含めて、相談・申請に來られた方に対し、わかりやすい説明と速やかに適正なサービス利用へと繋がるよう努めていく。	
障がい者関係団体の活動を助成することにより、障がい者同士が、研修や行事等に参加し、情報交換や親睦の機会を持つことで、閉じこもりの防止や社会参加を促進する支援につながった。また、手話サークルの活動により、手話に興味を持つ市民を増やすための取組や、手話奉仕員養成講習会を継続して実施することができた。今後の展開として、各団体が補助金を活用して社会課題の解決に向け、継続的かつ自立した活動が行えるよう伴走支援を行っていく。	

<ul style="list-style-type: none"> ・障がいも3種あるので、それぞれどう向き合っていくのか、的を絞った記述を今後の方針等で検討されたい。 ・市民目線では会計年度職員も市職員なので、職員に統一して分かりやすく表現されたい。

令和6年度施策評価シート（福原市第4次総合計画 前期基本計画）

1. 概要		
政策	Ⅱ	みんなが健やかに、支え合って暮らせるまち
施策分野	12	人権
目指す姿	すべての人の人権が尊重される差別のない社会を築く意識を市民の誰もが持っています。	

2. 成果と課題					
指標名	身近なところで人権問題が発生していると感じる市民の割合				
実績値	令和2年度	15.5 %	令和5年度	13.3 %	令和7年度

目指す姿に向けた課題	近年、特定の個人や地域への差別を助長するようなSNSへの書き込みや動画投稿などのインターネット上での人権問題が発生して いまだ あり、 中々 削除に至らない状況です。また固定的な性別役割分担意識については、未だ根強く残って お り ま ずあり、女性の就業率は上昇傾向にあるものの、奈良県は全国最下位となっています。またスマホを介して親密な関係を装い、子どもたちが巻き込まれる被害も起こっています。
------------	--

3. 目指す姿の実現に効果があった事務事業（効果があつた順番）

効果があつた事務事業	担当課室
① 人権啓発事業	人権政策課
② 人権教育推進事業	人権・地域教育課
③ 男女共同参画推進事業	人権政策課
④ 飛騨コミュニティセンター管理活用事業	飛騨コミュニティセンター
⑤ 大久保コミュニティセンター管理活用事業	大久保コミュニティセンター

総合政策審議会からの提言等
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度解決できなかった課題がどうなったか、どれだけ進んだかという内容を成果と課題に整理し、昨年度の今後の方針に対しどう解決に向かったかを表現されたい。 ・今年度は何をするという柱を表現するよう検討されたい。

担当課室		
人権政策課	飛騨コミュニティセンター	大久保コミュニティセンター
人権・地域教育課		

施策分野の 進捗度	進捗度	B	目指す姿に向けて順調に進んでいる
	進捗度の 根拠や成果		インターネット上の人権侵害、男女共同参画、部落差別など、様々な人権課題の解消を目指して取り組んでいるところです。7月の差別をなくす強調月間に開催した講演会の参加者アンケートでは、初めて参加した方が62%、人権問題についての関心や理解が深まったと回答した方が85%といった結果が出た一方で、社会人になってこうした行事に参加することが少なく人権に関心の少ない市民への働きかけをどうするかという課題が残っています。
今後の 方針			「情報プラットフォーム規制法」の施行に伴い、巨大IT企業にも事業者責任が求められることから差別のない社会の実現に向け、より積極的に関係機関と連携してSNS上のパトロールを行い削除要請等の措置を講じていきます。 差別事象や固定的な性別役割分担意識を解消していくための教育・啓発・相談体制を維持しつつ、多様な媒体を活用し、効果的で親しみやすく分かりやすい広報・啓発活動を継続的に行っていきますが、今後、 更に より参加者が増えるように 具体的な 啓発活動の方法について検討していきます。 令和7年度は、日本女性会議も開催することから、女性が働きやすい職場づくりに向けての基盤をつくっていきます。

事務事業による目指す姿への効果の内容とその理由	
<p>一人ひとりの人権意識の高揚を図るため部落差別をはじめ各種の人権侵害事案がSNS上で発生しており、啓発連協のインターネットステーションと連携して関係機関に削除要請を行い、これにより削除されたケースもありました。</p> <p>「人権を確かめあう日記念集会」「人権を考えるつどい」を実施しましたし、参加した一人ひとりが人権についての再認識をはかりました。また人権侵害事象や人権問題に悩む市民を支援するため人権相談の窓口を設けてケースによっては人権擁護委員による特設人権相談や女性相談などの市民相談につなぐなど、法務局にインターネット上の差別事案の削除要請を実施したりするなど、関係機関と連携して差別事象の解決に努めています。さらに法務局、人権擁護委員と協力してスマホ・ケータイ人権講座を実施しました。</p>	
<p>こども園・幼稚園・小中学校における園児・児童・生徒の人権を尊重し、教育保育保育・教育を通じて子どもたちの人権意識を育み、高めていく取組を推進しました。市内全ての校一園一所が年度当初に人権教育推進計画作成の説明会を開催し、年度当初に市内すべての各校園所が人権教育推進計画を作成しました。取組を充実させるためには教職員保育士の資質向上が必要で、令和6年度は5回の研修会を実施し91名の参加がありました。参加者のアンケートでは97%の方に満足していただくことができました。</p>	
<p>男女がともにあらゆる分野で個性と能力が十分に発揮できる多様性に富んだ豊かで活力ある社会の実現に向けて女性の就労支援「マザーズセミナー」や男性のワーク・ライフ・バランスを図るための「PAPAと一緒に考える親と子のコミュニケーション」など、男女共同参画広場を拠点に講座、交流、相談などの様々な学習機会を創出しています。そして日本女性会議プレ大会では、パートナーや子どもとの関わり方などをテーマとした「野々村友紀子さんトークショー」を開催し、アンケートでは78%の方に満足していただくことができ、日本女性会議の本大会開催に向けて機運醸成が高まりました。</p> <p>また、若い世代を被害者にも加害者にも傍観者にもさせないために「デートDV出前講座」を高校3校(定時制含む)及び中学校1校で実施し、人権を守るための学習機会を提供することができました。</p>	
<p>リニューアルされた当施設では、福祉の向上や人権啓発の交流拠点として、各種講座や相談事業の実施、センターだよりの発行、貸館(有料化)を行いました。また、コロナにより中止・縮小されていた活動展も地域の方々の協力により開催されました。さらに花いっぱい運動では地域美化の意識啓発に努めるとともに、地域の交流も図りました。児童館は、親子の集いの場や児童の居場所の提供を行い、遊びを通して基本的な生活習慣及び目標に向かって物事に取り組む姿勢を養い、児童の健全育成を図る活動を行いました。</p>	
<p>各種講座やデイサービス事業、貸館などを実施し、交流の場を提供しました。7月の人権啓発強調月間には啓発パネルや講演会、人権作品の展示などを行い、またふれあいセンターだよりに特別号を発行し、差別の解消に向け取り組んでいます。児童館では遊びを通じての規律や言葉遣いなど日常の基本的な生活習慣の指導をはじめ、創作活動や各種行事を実施し、子どもたちの健やかな成長を図っています。</p>	

・女性の就業率が低いなどの現状があり具体的に何を取り組むのか、課題や今後の方針等の表現を検討された

令和6年度施策評価シート（梶原市第4次総合計画 前期基本計画）

1. 概要						
政策	Ⅲ	みんなが安全に、快適な環境で生活できるまち				
施策分野	13	防災				
目指す姿	市民、地域、行政が本市の災害リスクを知り、それぞれの立場で生命・身体・財産を守る備えができています。					
2. 成果と課題						
指標名	住んでいる場所の災害リスクを知り、備えができている市民の割合					
実績値	令和2年度	25.9 %	令和5年度	28.7 %	令和7年度	
目指す姿に向けた課題	<p>災害リスクと備えを推進していくためには、市民、地域、行政の防災力向上に引き続き自助・共助・公助が必要不可欠です。</p> <p>公的機関等の支援である公助だけでは迅速かつ円滑な災害対応の遂行が困難なため、自助・共助を引き続き徹底させていくのに課題があります。</p>					
3. 目指す姿の実現に効果があった事務事業（効果があった順番）						
効果があった事務事業				担当課室		
① 災害対策事業				危機管理課		
② 安心パーク管理事務				危機管理課		
③ 消防体制維持管理事務				危機管理課		
④						
⑤						
総合政策審議会からの提言等						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 的を絞ってどのような施策をどう展開していくのか、また実施した内容などについて具体的な記述を検討されたい。 ・ 昨年度解決できなかった課題がどうなったか、どれだけ進んだかという内容を成果と課題に整理し、昨年度の今後の方針に対しどう解決に向かったかを表現されたい。 						

担当課室		
危機管理課		

施策分野の 進捗度	進捗度	B	目指す姿に向けて順調に進んでいる
	進捗度の 根拠や成果	コロナ禍において開催を自粛していた出前講座について、R5年度より本格開催しており、R5年度は37回、R6年度は44回と前年度より実施回数が増加していることから市民が災害リスクや災害への備えについて把握する機会となっています。また、市民の安心パーク利用率について、前年に比べ約5%上昇しており、域内の防災力向上に寄与しています。 今後防災講座や出前講座の拡充を図り、より幅広い年代層の参画を目指します。	
今後の 方針	防災訓練や出前講座、防災教育などを充実させ、幅広い年代層の参画を目指し地域防災力の向上を図ります。		

事務事業による目指す姿への効果の内容とその理由
<p>防災意識等の啓発として、令和6年度に出前講座を44回実施し、令和5年度と比較して約19%の増加となりました。また、地域の防災訓練である香久山地区防災訓練について今年度新たに市と地域住民とで合同実施し、災害時におけるそれぞれの役割について理解がより深まり地域防災力向上に寄与しました。</p>
<p>自主防災組織等に対し、防災講座を通じて周知・啓発した結果、令和6年度の市民対象向け稼働率が、令和5年度に比べ約5%増加となり、市民の訓練参加者の増加に繋がりました。これにより、訓練参加者の災害時に実践できる技能や防災意識の向上に寄与しました。</p>
<p>地域に密着し、市民の安心と安全を守る消防団は、消火活動、訓練指導、年末の警戒活動など、幅広い活動に従事し、災害時には、即時に対応できる能力を有しているため、消防団員の人数を確保することは必要不可欠です。令和6年度は消防団員の入団に繋げるために、HP等で消防団員の活動内容を市民に発信したことで、8名が新たに入団しました。</p>

<ul style="list-style-type: none"> 例えば、何かのイベントのときに訓練を行うなど、防災に対する無関心層にどのような啓発をしていくのかの方法についての表現を検討されたい。 自主防災組織に対する市の支援強化について検討されたい。

令和6年度施策評価シート（檀原市第4次総合計画 前期基本計画）

1. 概要

政策	Ⅲ	みんなが安全に、快適な環境で生活できるまち
施策分野	15	交通
目指す姿	自分に合った手段で、誰もが快適に市内を移動することができています。	

2. 成果と課題

指標名	市内を快適に移動することができていると感じる市民の割合					
実績値	令和2年度	64.6 %	令和5年度	58.2 %	令和7年度	
目指す姿に向けた課題	既存のバスは利用者数、収支率が低いために、市からの補助金額が増加傾向にあり、既存バスの維持が将来的に難しくなる可能性がある。また、既存公共交通の利用が困難な交通不便地域の移動手段確保が必要である。					

3. 目指す姿の実現に効果があった事務事業（効果があった順番）

効果があった事務事業	担当課室
① 地域交通網整備事業	都市計画課
② 自転車駐車場管理運営	資産経営課
③ 自動車駐車場管理運営	資産経営課
④ 交通安全推進事業	都市計画課
⑤	

総合政策審議会からの提言等

・交通の利便性、安全などの点を絞って整理し、今後の方針についても具体的にどのような方針で事業を進めるのか記載することを検討されたい。

担当課室		
都市計画課	資産経営課	

	進捗度	C	目指す姿の実現には努力が必要である
施策分野の 進捗度	進捗度の 根拠や成果	既存の駐車場、公共交通は維持できているものの、バス路線の収支率は低く、事業者、県、他市町村と協議して対策を行っているが、有効な対策には至っていないため。また、新たな交通手段を確保するための実証実験を令和5年度に引き続き行い、前年度に比べて一定の増加はしたものの利用者はまだ少なく、本格運行に向けて更なる改善を要するため。	
今後の 方針	事業者、県、他市町村との協議を今後も継続し、公共交通事業の利用促進、バス路線の収支改善に向けて対策を行う。新たな移動手段の確保については、2ヶ年の実証実験の結果を踏まえ、利用率向上に向けて検討を行い、本格運行を目標に取り組む。		

事務事業による目指す姿への効果の内容とその理由	
<p>既存地域路線バスへの運行助成を行うことで公共交通を維持することができた。また、真菅地区におけるタクシー車両を活用した乗合交通の実証実験を令和5年度に引き続き実施し、新たな公共交通の可能性を探ることができた。</p> <p>真菅地区乗合交通実証実験結果（延べ利用者数） 令和5年度：190人 令和6年度：763人</p> <p>自転車駐車場は、公共交通機関への乗り継ぎ・乗り換えの拠点であり自転車駐車場を適切に管理・運営することは自転車利用者の利便性が向上し駅を中心とした安全で快適な交通環境の維持に寄与している。</p> <p>自転車・単車延べ利用台数（※無料自転車置場は除く） 令和3年度：177,229台 令和4年度：186,418台 令和5年度：194,288台 令和6年度：196,929台 +97,049台</p> <p>駐車場は、公共交通機関への乗り継ぎ・乗り換えの拠点及び駅周辺施設利用者の拠点であり、駐車場を適切に管理・運営することは道路交通の円滑化を図り、安全で快適な交通環境の維持に寄与している。</p> <p>駐車場延べ利用台数 令和3年度：209,788台 令和4年度：243,531台 令和5年度：262,427台 令和6年度：269,696台</p> <p>交通安全期間中の啓発活動で地域住民の交通安全意識を高め、交通安全教室で子どもたちに標識や交通ルールを知ってもらい歩行訓練などを行うことで、交通事故の未然防止に貢献できた。</p> <p>また、放置自転車等の告知や撤去により、自転車利用マナーの向上及び都市景観の維持を実現できている。</p>	

・実証実験の効果・結果などについての記載を検討されたい。

令和6年度施策評価シート（檀原市第4次総合計画 前期基本計画）

1. 概要

政策	Ⅲ	みんなが安全に、快適な環境で生活できるまち
施策分野	18	地球環境
目指す姿	市民が環境保全と資源循環に高く関心を持ち、環境負荷の少ない持続可能な社会を築いています。	

2. 成果と課題

指標名	日頃から環境に配慮した行動を取っている市民の割合				
実績値	令和2年度	46.6 %	令和5年度	49.8 %	令和7年度
目指す姿に向けた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの減量は進んでいるが、更なる再資源化の向上を図る必要がある。 ・脱炭素社会の実現にはより一層の市民との協働体制を構築する必要がある。 				

3. 目指す姿の実現に効果があった事務事業（効果があつた順番）

効果があつた事務事業	担当課室
① ごみ減量化・資源化事業	環境政策課
② ごみ資源化処理運営事務	資源循環課
③ 3R推進事業	資源循環課
④ 環境対策事業	環境政策課
⑤	

総合政策審議会からの提言等

・ゴミの減量や資源化、CO2削減等の地球環境保全などの観点があるが、減量のことが多く記載されてるように思われる。効果の出ていないところもあるかもしれないが、その他効果のあつた施策の表現の充実を検討されたい。

担当課室		
環境政策課	資源循環課	

	進捗度	C	目指す姿の実現には努力が必要である
施策分野の 進捗度	進捗度の 根拠や成果	処理手数料制度などのごみ減量を促すような制度により、1人1日あたりのごみ排出量は順調に減っている（令和5年度:900g/人・日、令和6年度:890g/人・日）。一方で資源化率（ごみの排出量に占める回収資源の量）は低下しており課題が残る（令和5年度:10.5%、令和6年度:10.2%）。市役所業務の温室効果ガス排出量は減少の停滞が見られる（令和5年度:22,016t、令和6年度:22,353t）。	
今後の 方針	脱炭素及び資源循環を促す情報発信や啓発の在り方を、より実効性の高い方法に改善することによって効果が見込める。		

事務事業による目指す姿への効果の内容とその理由	
<p>ごみ処理手数料の一部を排出者が負担する「処理手数料制度」、資源物の自主的な回収活動を実施する団体に対して回収量に応じて報償金を交付する「集団回収報償金制度」、生ごみ処理機の購入費の一部を補助する「生ごみ処理機器購入補助制度」などを展開することにより、廃棄物の減量化と資源循環を促した結果、1人1日あたりのごみ排出量が前年度に比べて10g減少した。（令和5年度:900g/人・日、令和6年度:890g/人・日）</p> <p>市民に対して適正な分別方法の案内や指導などを行うことで再資源化意識の向上が図られた。資源化率については、今年度より開始した一時多量ごみ収集サービスの影響により、資源化できないごみの割合が増加し低下したと考えられるが、一部設備の改造により、アルミの回収量は増加している。（リサイクル館かしはらにおける処理量実績 令和5年度：4,642t、令和6年度：4,579t・資源化量実績 令和5年度：2,544t、令和6年度：2,362t・資源化率 令和5年度：54.8%、令和6年度：51.6%）</p> <p>広報誌やスマートフォン向けアプリを用いて、市民に対して環境関連情報を広く発信、環境保全に関する啓発ポスターや標語の募集・展示、処理・啓発施設における見学などの受入、放置自転車・古家具を再生し提供するリユースマーケット、常設のリユースコーナーでのリユース品の無償提供などを行うことで、市民の環境意識が向上しごみの減量化が図られている。（令和5年度リユース品の提供13,425点、令和6年度リユース品の提供9,163点）</p> <p>住宅への太陽光発電システム等の設置費用の一部を補助する「エコライフハウス設備設置補助制度」を展開し、市域における温室効果ガスの排出抑制および環境負荷の少ないライフスタイルへの変換を促した。（補助件数実績98件/年）市役所業務における温室効果ガス排出量を調査し、環境審議会にて報告・評価することを通じて、課題の抽出および解決策を明確にした。</p>	

- ・効果があった内容を踏まえれば、評価もBでもよいと思われるので検討されたい。
- ・ZEB化やZEH化についての記載について検討されたい。

令和6年度施策評価シート（檀原市第4次総合計画 前期基本計画）

1. 概要

政策	Ⅲ	みんなが安全に、快適な環境で生活できるまち
施策分野	19	生活環境
目指す姿	市民が、良好な生活環境で暮らすことができます。	

2. 成果と課題

指標名	良好な生活環境で暮らすことができていると感じる市民の割合					
実績値	令和2年度	61.3 %	令和5年度	55.8 %	令和7年度	
目指す姿に向けた課題	引き続き良好な生活環境を維持するためには、廃棄物処理を始めとした各種事業を持続安定的に実施する必要がある。					

3. 目指す姿の実現に効果があった事務事業（効果があつた順番）

効果があつた事務事業	担当課室
① 一般廃棄物処理運営事務	環境施設課
② 塵芥収集事務	収集業務課
③ し尿処理場管理事務	資源循環課
④ し尿処理事業	資源循環課
⑤ 地域環境衛生事業	環境政策課

総合政策審議会からの提言等

- ・リクエスト収集における集合住宅でのルールづくりについて検討されたい。
- ・目指す姿にどう貢献したか、公害防止・衛生・地域美化に整理し、具体的な数値などを用いて記載することを検討されたい。

担当課室		
環境施設課	収集業務課	資源循環課
環境政策課		

施策分野の 進捗度	進捗度	A	目指す姿を既に実現している
	進捗度の 根拠や成果	廃棄物処理を始め、公衆衛生や美化意識の向上に資する施策を確実に実施することで、生活環境上の問題は生じていない。	
今後の 方針	長期継続的な視点で、人材、施設・機器、予算の確保を進める。また、ごみ排出困難者への対応等、新たなニーズへの対応を図る。		

事務事業による目指す姿への効果の内容とその理由	
	<p>処理施設において、各種関係法令の遵守並びに継続的で安定的な処理機能の確保を行うことにより、処理計画に基づき、処理を停滞させることなく適正に廃棄物を処理した。（処理量実績37,186 t/年） また、施設周辺住民をはじめ市民に対して、施設の運転状況を公開し、安全と安心の提供を図った。</p>
	<p>生活環境の保全と公衆衛生の向上のため、適切な収集体制の確保や車両管理を行い、滞りなく家庭系一般廃棄物の収集を行った。ごみ収集場所までの排出作業が困難な高齢者世帯等に対しては、玄関前でごみを収集する「ふれあい収集」や「粗大ごみのリクエスト収集」を展開し、生活環境の保全を図った。</p>
	<p>処理施設において、各種関係法令の遵守並びに継続的で安定的な処理機能の確保を行うことにより、処理計画に基づき処理を停滞させることなく適正に廃棄物を処理した。（処理量実績22,266 t/年） また、施設周辺住民をはじめ市民に対して、施設の運転状況を公開し、安全と安心の提供を図った。</p>
	<p>良好な生活環境を維持するために合併浄化槽設置に対しての補助を行い、下水道を含めた生活排水処理率は市の人口の85.7%に達した。</p>
	<p>県獣医師会ならびに自治会の協力の下、地区公民館等において狂犬病予防集合注射の接種事業を行った。飼い主のいない猫に対する不妊去勢手術費の一部を助成する取組を展開した。（助成件数実績62件/年）地域の美観形成の推進を目的として、地域において自ら花づくりを実施している団体に対し、樺原市花いっぱい運動推進事業補助金を交付した。（交付件数実績10件/年）</p>
<p>・飼い主のいない猫に対する不妊去勢手術費の助成制度について、事前にチケットを出す等の対応をされているとのことであり、引き続き取組みを継続されたい。</p>	

令和6年度施策評価シート（檀原市第4次総合計画 前期基本計画）

1. 概要						
政策	IV	みんなが活力と魅力を生み、賑わいあふれるまち				
施策分野	24	観光・交流				
目指す姿	市民が檀原市の魅力や新たな価値を積極的に発信し、中南和地域の観光・交流の拠点としてまちに多くの人が訪れています。					
2. 成果と課題						
指標名	檀原市の魅力や価値を他の誰かに伝えることができる市民の割合					
実績値	令和2年度	39.4 %	令和5年度	37.8 %	令和7年度	
目指す姿に向けた課題	ストリートファイターを活用したホテルにより、来訪者・報道関係からの発信につながり始めています。 「日本国はじまりの地 檀原」の魅力や新たな価値を国内外に発信する中心的なツールとして、市民や民間の力を活用できる仕組みの構築や中南和地域の強みである歴史・文化との親和性を図ることが課題となります。					
3. 目指す姿の実現に効果があった事務事業（効果があった順番）						
効果があった事務事業				担当課室		
① 戦略的情報発信事業				企画政策課		
② 観光振興事業				観光政策課		
③ 観光プロモーション事業				観光政策課		
④ 観光施設管理活用事業				観光政策課		
⑤ 観光客受入れ環境整備事業				観光政策課		
総合政策審議会からの提言等						
<ul style="list-style-type: none"> ・観光・交流全体の観点から、ストリートファイターを活用した事業以外の成果や課題についても記載するよう検討されたい。 ・目指す姿に向けた課題と今後の方針について、成果に結びつくような具体的な表現を検討されたい。 						

担当課室		
観光政策課	企画政策課	

施策分野の 進捗度	進捗度	B	目指す姿に向けて順調に進んでいる
	進捗度の 根拠や成果		ストリートファイターを活用したサイトについて、近鉄やJRの駅名標へのオリジナル装飾や樫原郵便局のバナーへのキャラクターリングなど企業との連携も行っており、これらサイトの情報を整理しホームページで発信した結果、閲覧数が大幅に増えています。また観光分野についても、コロナ以降は、樫原夢の森フェスティバルなどのイベント参加者や市内宿泊客数も増加傾向となっていますが、中南和地域の観光・交流拠点としては、なお発展の余地があります。
今後の 方針			ストリートファイターを活用したサイトについて、将来ビジョンを示し、地域でいかにして魅力を向上させていくかを話し合う場をつくり、市民や民間の力を活用できる仕組みの構築につなげていきます。また可能な限り、既存の観光プロモーションとの親和性も図っていきます。

事務事業による目指す姿への効果の内容とその理由	
<p>樫原市にゆかりのある方々の寄附で「リュウ」「春麗」に次ぐ3体目「ケン」の銅像を、樫原神宮駐車場入口前に設置するとともに、ホームページでサイトの情報を継続して発信した結果、閲覧数(R5 51,628回→R6 88,268回)が大幅に上がり、マスコミ等取材・問合せ・来訪が増加しています。また、近鉄やJRの駅名標へオリジナル装飾を行い、また、樫原郵便局のバナーやキャラクターリングするなど企業とも連携をしながら、サイトを運営しています。X(エクス)では、銅像・駅名標についての声が上がり、一定の効果を示しています。</p> <p>中南和地域で最大規模となる市民参加型のイベント「樫原夢の森フェスティバル」を開催し、本市及び姉妹都市である宮崎市の物産展等の多様なコンテンツを活用して幅広い世代に対しアプローチを行った結果、2日間の来訪者が前年度比約7.5%（R5 4万人→R6 4.3万人）増となり、地域の魅力を広く発信することに繋がっています。</p> <p>Instagramによる観光情報の発信頻度を高めた結果、フォロワー数が前年度比約2%（令和6年4月4,075人→令和7年4月4,146人）増となりました。また、観光協会委託事業による都市圏での観光プロモーションなどを行い、市内誘客を進めた結果、市内宿泊客数については、大型宿泊施設が2か月間休業していたため前年比約4%（令和5年187,792人→令和6年180,280人）減となったものの、休業期間を除いた10か月間では前年比約6%（令和5年155,148人→令和6年164,711人）増となり、中南和地域への来訪者増に繋がっています。</p> <p>本市を代表する歴史的建造物である八木札の辻交流館、今井まちなみ交流センターを中心に誘客を進め、周辺施設を整備して観光客や地域住民の利便性の向上に寄与した結果、各施設の来場者数は、八木札の辻交流館について、夜間来館を計上すれば前年度実績を維持（R5 5,719人→R6 5,708人）し、今井まちなみ交流センターについて、前年度比約6%（R5 16,995人→R6 18,018人）増となり、地域の観光の拠点として定着しています。</p> <p>市内にある観光トイレについて故障箇所の修繕を適宜行い（R6 7件）、観光交流センターの老朽化により空調設備改修工事及びLEDビジョン改修工事に伴う設計委託業務を実施し、「飛鳥・藤原の宮都」の世界遺産国内推薦候補選定に伴って市内11か所にある観光案内板について表示内容の更新を行った結果、観光客が安心して快適に利用できる環境を維持しています。</p>	

- ・ストリートファイターを活かした、事業者とのコラボ商品開発やe-sportsなどによる観光振興の実施について検討されたい。
- ・何もないところに表現ができるAR・VRの活用を検討いただきたい。

令和6年度施策評価シート（橿原市第4次総合計画 前期基本計画）

1. 概要		
政策	IV	みんなが活力と魅力を生み、賑わいあふれるまち
施策分野	25	商工業・しごと
目指す姿	新たな産業を生み出す環境が整い、地域経済の循環を市民がまちの賑わいとして実感しています。	

2. 成果と課題						
指標名	経済が循環し、まちが賑わっていると感じる市民の割合					
実績値	令和2年度	23.9 %	令和5年度	15 %	令和7年度	

目指す姿に向けた課題	<p>物価高騰や米国の貿易政策や為替変動など経済の先行きが不安定な状況において、市内事業者の支援が急務となっている。地域経済の発展のためには、新規創業者の支援や販路の拡大、後継者育成等による開廃業率の改善が必要不可欠である。産業用地創出候補地である京奈和自動車道橿原北IC周辺及び御所IC周辺は、大部分は開発困難な農振農用地となっている。開発を可能とするために地域未来投資促進法の支援措置を活用するべく、県と調整を行ってきたが、農振農用地での開発制限が法改正でより厳しくなるため、事業継続が困難となっている。また、多くの既存事業者（製造業）の工場等については、事業拡大や既存施設の更新の時期を迎え、新たな事業用地が求められているところであるが、市内には受け皿となる産業用地が不足しているため、新たな産業用地の創出が求められている。</p> <p>交通利便性の高い京奈和自動車道橿原北IC周辺及び御所IC周辺における産業用地創出可能性を検討したところ、大多数の地権者の土地活用意向や、企業の立地意向の高さが確認できた。しかしながら当該候補地の大部分は開発困難な農振農用地であるため、開発を可能とするための取組が求められている。</p>
------------	--

3. 目指す姿の実現に効果があった事務事業（効果があつた順番）

効果があつた事務事業	担当課室
① 商工業振興事業	地域振興課
② 企業立地推進事業	企業立地推進室
③ 創業者・中小企業等支援事業	地域振興課
④ ふるさと納税事業	地域振興課
⑤ 労働対策事業	地域振興課

総合政策審議会からの提言等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 目指す姿にどう近づいたのかという観点で、根拠を明示し記載することを検討されたい。 ・ 農振農用地の開発制限という課題については、地域の方々とどう土地利用をしていくかを共に考えていくことを検討されたい。

担当課室		
地域振興課	企業立地推進室	

施策分野の 進捗度	進捗度	B	目指す姿に向けて順調に進んでいる
	進捗度の 根拠や成果	起業等スタートアップ補助金制度を活用した起業や、創業支援融資件数がコロナ禍前の実績値まで回復するなど、新たな産業を生み出すための機運が高まっている。五井町市有地について、地積測量調査等を開始し、立地希望把握のための仮エントリーでは1社の応募を得た。新産業用地創出については、地域未来投資促進法の支援措置を活用した民間開発の誘導に向けて、県との調整を行った。また土地活用意向調査により、大多数の地権者に活用意向があることを把握した。上記はいずれも取組段階であり、立地や整備の確約の無いこと、機運の醸成を継続して高めている段階であるため、進捗度をBとした。	
今後の 方針	五井町市有地については、整備に向けた設計等の取組を進め、新産業用地創出については、県等との調整を継続し、他の手段についても検討する。また、人材不足解消に向けた市内事業者への支援措置の創設や、奈良労働局等と連携した就労イベントを実施し、地域の活性化に繋げる。		

事務事業による目指す姿への効果の内容とその理由
<p>榎原商工会議所を通じて、創業塾開催による新たな創業者支援やビジネス商談会、榎原ブランド追加による販路拡大を実施した。ショッピングモールでの物産展や2年連続で宮崎物産展を開催するなど榎原ブランドを中心とした販売会を実施し、世界遺産登録推進の機運醸成に合わせて藤原宮跡でのマルシェの開催など、本市の特産品を広く周知しPRできたものとする。また、冬季イベントである大和八木駅前のイルミネーションやyes21ふれあいフェスを継続して開催することで、駅周辺商店の賑わいの創出に繋がった。</p> <p>企業立地推進事業については産業の振興と雇用の創出、税収確保、ひいては市民サービスの維持・向上を目的に事業を進めている。比較的多くの税収や雇用を見込むことのできる製造業の企業を中心に訪問等を繰り返し、企業動向の把握と榎原市での立地意向の喚起に取り組んだところ、五井町市有地の仮エントリー募集において1社の応募を得たほか、複数の開発事業者からの問い合わせを受けている。また開発事業者との、経産省の工場立地動向調査や市独自で行った産業用地創出実現可能性調査等の結果から、意見交換や情報交換を行うことで、市内への立地ニーズについて把握するとともに、これら関係者の市内立地への関心を喚起できた。</p> <p>市制度融資の申請から実行までの期間の短縮化を図り、コロナ禍で市緊急融資を借りた事業者を利子補給制度等により事業者の資金繰りを支援することで、既存事業の継続と廃業の抑制に努めた。また新たな産業を生み出すために起業を支援する融資制度などの創業支援事業を行った。その結果、創業支援融資実績については新型コロナウイルス感染症拡大前の水準に回復した。R5年度から開始した起業等スタートアップ補助金については、4件からR6年度は9件の実績となり積極的にチャレンジする事業者の後押しとなった。</p> <p>市の財源確保と市内事業者の販路拡大のため、魅力ある特産品を発掘した結果、新たに6事業者72返礼品を追加した。さらに新たなポータルサイトとして「さとふる」、「ふるラボ」、「JRE.さとふる納税」を追加し、また検索連動型広告により令和6年11月から令和7年3月の間で約880万円の寄附が増加するなど寄附額を順調に伸ばし、さとふる納税金額は過去最高の1億4千万円を超える結果となった。</p> <p>令和4年度に締結した「雇用対策協定」をもとに子育て世代、若年層、生活困窮者等に対する包括的な支援事業や奈良労働局主催の合同企業説明会等の周知を実施した。また、シルバー人材センターを通じて高齢者の生きがいづくりを側面的に支援したり、ハローワーク大和高田と初めての取り組みである合同就職面接会の開催や、子ども向け就労イベントであるしごとフェスタへ協力することで、就労の機会を創出し、地域活性化に向けた一定の効果があったものとする。</p>

- ・さとふる納税に対し、体験型の返礼品を検討されたい。
- ・労働対策として健康経営優良法人の認定が若い労働者に重視されている現状があるため、今後の課題としての記載を検討されたい。